



県水だより



第240号

令和4年1月1日(土)

年4回発行

4月・5月・9月・1月

目次 2面 令和2年度上水道事業決算の概要、桜の季節見学会など / 3面 停電時でも使用できる蛇口があるか確認しましょう、新春クロスワード / 4面 募集・お知らせ

謹賀新年

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
私は、昨年4月に千葉県知事に就任して以来、全力で県政運営に取り組んでまいりました。
昨年、新型コロナウイルス感染症による厳しい試練の年となりましたが、皆様には一年を通じて多大な御協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、千葉県営水道は昭和11年に給水を開始して以来、数度の事業拡大を経て、今日では県北西部を中心に11市、約300万人のお客様に水を供給する、給水人口全国第3位の大規模水道事業体に発展いたしました。
千葉県営水道の基本理念は、「いつでも、安全でおいしい水を安定して供給し、お客様が安心して、信頼を寄せる水道」です。

この基本理念の実現に向け、今年度から開始した中期経営計画に基づき、各種施策の推進と健全経営の確保に努めております。

現在、県では、県政運営の基本となる「総合計画」を策定しているところです。県が目指す10年後の姿と、今後3カ年の重点施策について取りまとめる予定であり、SDGsなどを施策横断的な視点として位置付け、事業を実施することとしています。

千葉県営水道におきましても、災害に強い水道の構築と安全な水の供給に全力で取り組んでまいりますので、御理解、御協力をお願いいたします。

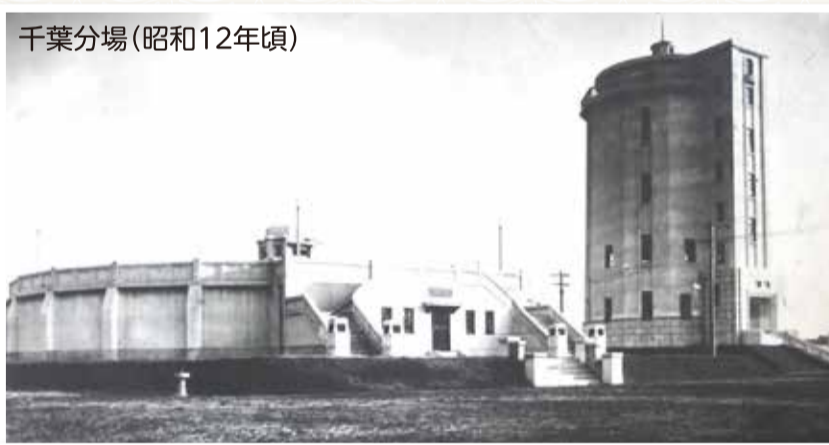
令和4年 元旦



千葉県知事 熊谷 俊人

おしえてポタリちゃん! 施設編

県営水道で最も歴史ある施設「千葉分場」



昭和11年度、千葉県営水道は「千葉分場(旧:千葉水源工場)」を建設して給水を開始しました。
現在では、柏井浄水場や福増浄水場で作られた水道水を千葉市内(千葉寺町、星久喜町、青葉町、矢作町、葛城、亥鼻等)に供給する施設ですが、当時は地下200mもの深さから地下水をくみ上げて塩素消毒する「水道水を作る施設」としての役割も担っていました。
建設から85年が経過した今でも、千葉県営水道を支える施設として立派に稼働しています。

○空襲の記録「運転日報」

稼働開始から毎日欠かさず「運転日報」を記録しています。その中には第二次世界大戦終戦の年である昭和20年度の日報も保管されており、当時の状況を物語っています。
千葉市に大規模な空襲があった昭和20年7月7日の日報には、要約すると次のように記されています。



「0時11分、空襲警報が発令され、千葉市全域に焼夷弾攻撃を受ける。停電し、高架水槽の水位が0となったため、配水池に切り替えて送水したがその後断水。配電線点検の結果、高圧線とリレー線の計2本が直撃弾のため切断され運転不能。」

○土木遺産・有形文化財への登録

千葉分場内の施設「千葉高架水槽」及び「1号配水池」は、土木学会選奨土木遺産、登録有形文化財に登録されています。
アールデコの特徴的なデザイン(正十二角形平面)や、建設当時のたたずまいを保っていることなどが評価されました。

アールデコは、建設当時ヨーロッパやアメリカを中心に流行した装飾の一つで、幾何学図形をモチーフにした特徴を持っているよ!



1号配水池



千葉高架水槽